

【取組の概要】

・棚田を始めとした、農耕景観、並びに農業に関わる文化遺産の再生、保存、活用を行う為に、広く市民の参加を求めつつ、社会貢献の諸活動を行い、今崩壊しようとしている農山村の再生、発展と地域振興に寄与することを目的とする。

- 活動拠点となる棚田での年間を通じての活動
- 活動拠点以外の周辺棚田の環境保持の為の草刈
- 荒廃している棚田の復活
- 県内外との交流活動の拠点

【体制】

敷島棚田等農耕文化保存協会（1997年5月設立）

- ・会員は現在28名（県内外から参加）
- ・役員は会長、副会長、事務局長、理事、監事
- ・会員全員が活動参加するのが原則

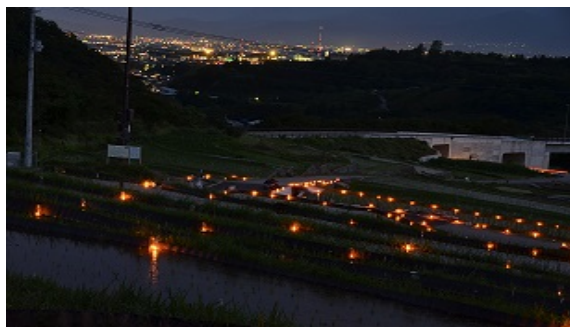


【取組内容】

■棚田の風景



■ろうそく点灯祭



■田植え祭



■稲刈り等収穫祭



[1] 取組経緯

- 平成7年 棚田所有者への個別折衝、行政機関等への働きかけ、地元の自治会や農事組合役員等との会議。
- 平成9年 5月 敷島棚田保存会設立。
以来、活動拠点での各種活動、活動拠点となる棚田を順次確保。
- 平成15年8月 NPO法人設立。
棚田での活動を始め、地元や地域住民、県内外へのPR活動、都市住民との共同作業、田植え前の水田を舞台にした世界的舞踏家田中泯氏による野外公演。東京のボランティア団体との共催による親子田植え祭り、笛太鼓唄による早乙女による田植え祭り、子どもによる泥んこ遊び、魚つかみ取り大会等たくさんのイベントを開催しています。

[2] 工夫した点

- 棚田は日本の文化源泉であり、農耕文化の原点であることを常時発信。
- 敷島棚田の歴史は古く、徳川幕府の初期に「御朱印田」の幕府の許可を受けて開田した。その証拠として、ここの地名は「御領」である。他にはない特徴を発信。
- かつての棚田は千枚以上あったが、現在開田可能と推定されるのは約8百枚あり、これは全国でも上位の規模である。その特異性を発信して来た。
- 棚田は人と人をつなぐ魅力あるツールであることの啓発。
- 地元との共同意識の重要性をPR。

[3] 取組効果

- 会発足当初の棚田は、約半分が耕作放棄地で草や木に覆われ、地元や地主は、棚田は手がかかり収入のない「厄介もの」とした意識が支配していた。また、行政の協力も得られず、活動もかなり厳しい状況にあった。しかし、少しずつ我々の活動が理解され、地元住民や地主も協力的になってきた。
- 2013年度 美しい県土づくり大賞 活動賞 受賞。

[4] 取組の今後の展開及び課題

- 地元住民と地主の交流を深め、荒れ田の耕作開始を誘導したい。特に、手作業では復活困難な荒廃田の復活は、行政による補助事業等がないと困難な状況にある。
- 棚田オーナー制度を導入し、都市住民との恒常的な交流や地元農家と都市農民の農産物を通じた交流を深めたい。また、棚田は観光地である昇仙峡の入り口にあるので、観光名所とするため、関連施設の整備、農家民宿を通じての都市との交流などにより甲斐市観光の重要な拠点にし、「御領棚田米」、「御領棚田の酒」などの生産物のブランド化を進めたい。そのためには、常設の拠点施設と人員と、行政の協力や独自の収入増加、運営費の助成金導入をすすめる必要がある。
- 現在甲斐市で進めている「甲斐市景観条例」において、甲斐市を代表する棚田景観になるよう、行政と地域住民と協力を強化し、素晴らしい棚田景観の保持と景観田の範囲を拡大したい。

[5] 事業費、財源とした補助事業等

- 会員からの会費
- 甲斐市農業振興事業補助金
- 会員による機材や原料調達